

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立加美小学校
学校長名	沖 直美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 87名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では、平均正答率が59.0%で、全国（67.7%）と比較すると-8.7%と大きく下回っている。前回の調査（対全国-3.2%）と比較しても、差が広がっていることがわかる。

算数科では、平均正答率が50.0%で、全国（63.4%）と比較すると-13.4%とかなり大きく下回っている。前回の調査（対全国-3.5%）と比較しても、差が広がっていることがわかる。

さらに、平均無回答率も、国語科・算数科ともに全国と比較しても約-3%多くなっている。正答数の分布グラフを見ると、国語科・算数科ともに第四区分の児童が多いことがわかる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別正答率をみると、「B 書くこと」「C 読むこと」で改善が見られた。これは、昨年度より国語科「読むこと」を全学年で研究を行ったことが要因の一つと考えられる。学力向上支援チーム事業を効果的に活用してスクールアドバイザーの先生に継続的に指導していただいたことが、この成果につながったといえる。また、朝学習「KAMI TIME」を実施して、日記指導や視写に取り組んでいることも成果につながった。一方、「A 話すこと聞くこと」については、全国平均-11.5%となった。国語科だけでなく、どの教科でも自分の考えを発表する、友達の考えを聞く主体的・対話的な授業を実践していく必要がある。

〔算数〕すべての領域別正答率で全国平均-10%以上下回っている。四則計算の計算力などの知識・技能の定着が必要である。また、「C変化と関係」では、全国平均-18.4%低くなっている。グラフや資料の読み方などの基礎基本的な定着が喫緊の課題といえる。朝学習「KAMI TIME」で百マス計算などの基礎基本の定着と、デジタルドリルを活用した個別最適な学びを実践していく。

質問調査より

昨年度の大阪市小学校経年調査における自尊感情の項目「自分にはよいところがある」の肯定的回答の割合が、56.3%であった。大人が認めること、友達同士で認め合いをすることを大切にした学校教育を進めた結果、肯定的回答が68.5%と向上した。まだまだ低い結果であるため、継続して児童の良い姿を具体的に称賛したり良好な友達関係が作れるように支援していく。

そして、大きな課題として「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答が71.9%と全国・大阪市と比較してもかなり低かった。本校学校目標「子どもの笑顔のある学校」においても、これは最重要課題である。1日の大半を学校で過ごす児童にとって、学校生活は心身ともに安心安全な場でなければならない。そのためには、日々の学習で「わかる・できる・楽しい」ものであるべきである。そのためには、主体的に自分の考えを発表したり、友達と考えを交流したりして、考えを広げたり深めたりする授業を実践していく。

今後の取組(アクションプラン)

「学校に行くのは楽しい」思える学校を目指す。

○授業改善を行い、主体的に学ぶ児童の育成を図る。

- ・朝学習「KAMI TIME」の充実を図り、国語科・算数科の基礎基本の知識・技能の向上を目指す。
- ・スクールアドバイザーの指導の下、「わかる・できる・楽しい」授業づくりを行い、児童が進んで発表したり、友達と考えを交流したりして、自己形成を図れるようにする。

○自他ともに認め合う心の育成を図る。

- ・教職員が児童の良い姿を称賛したり、児童同士の良好な人間関係の育成を行ったりする。
- ・異学年交流(たてわり班活動)を充実したり、委員会活動で他者のために取り組む充足感を味わえたりできるように 学校教育を活性化させる。

【 全体の概要 】

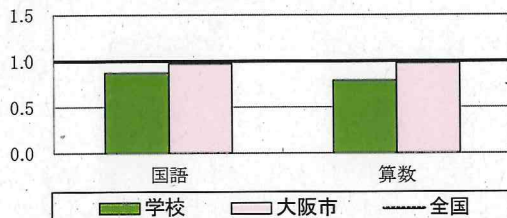
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	59	50
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

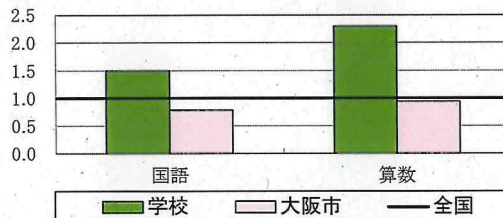
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	6.3	7.8
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



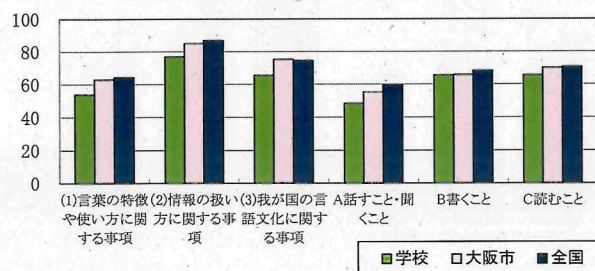
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	54.0	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	77.0	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	65.5	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	48.3	55.3	59.8
B 書くこと	2	65.5	65.9	68.4
C 読むこと	3	65.5	70.1	70.7

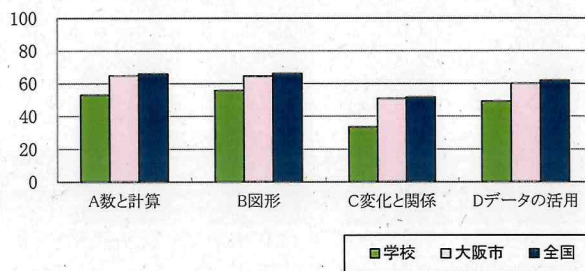
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	52.9	64.8	66.0
B 図形	4	55.7	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	33.3	50.8	51.7
D データの活用	4	49.1	60.0	61.8

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

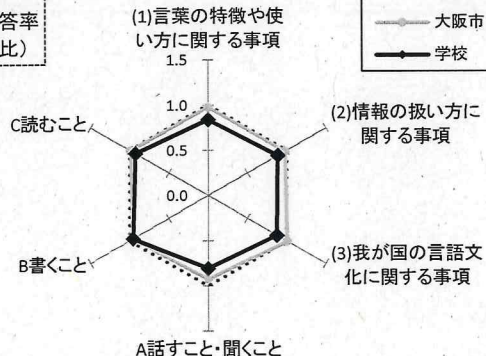


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



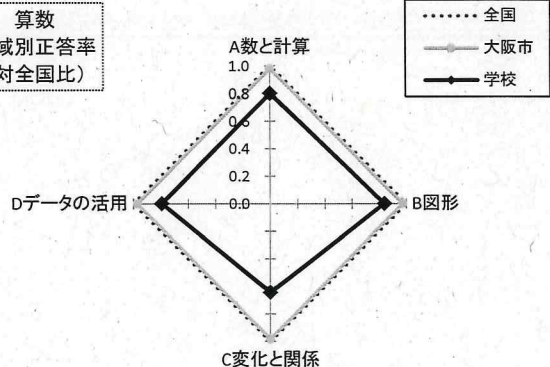
国語

内容別正答率
(対全国比)



算数

領域別正答率
(対全国比)



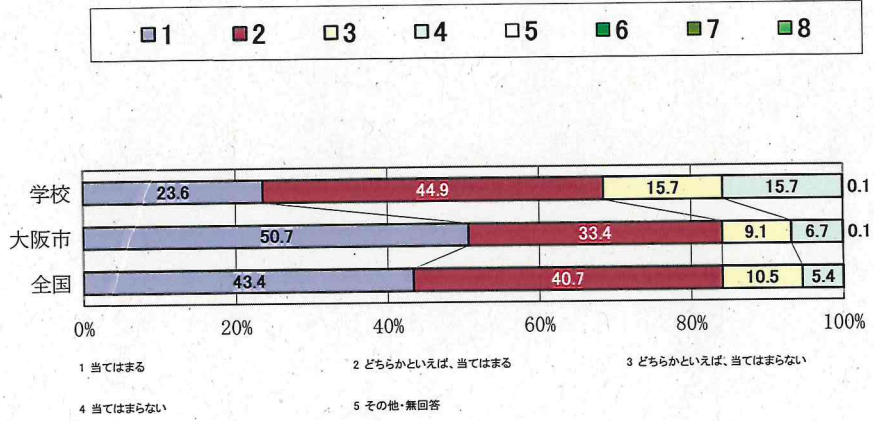
児童質問より

質問番号

質問事項

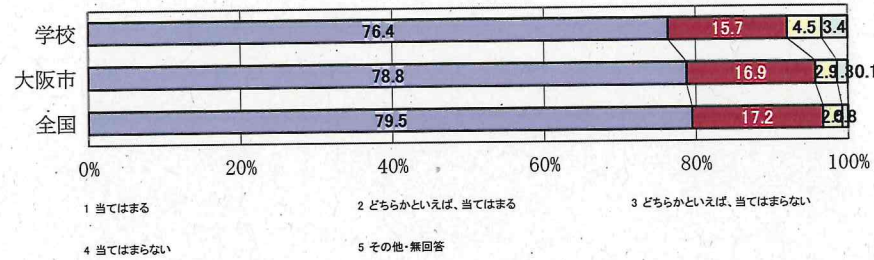
9

自分には、よいところがあると思いますか



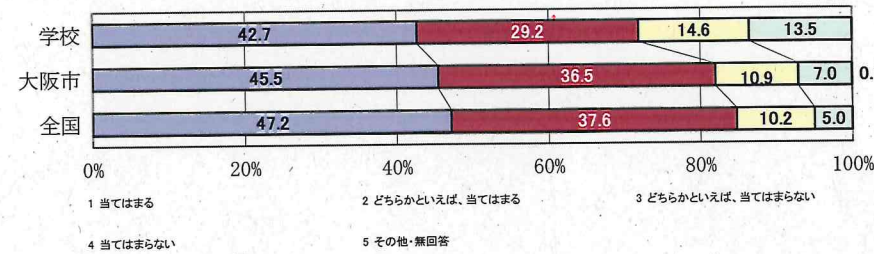
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



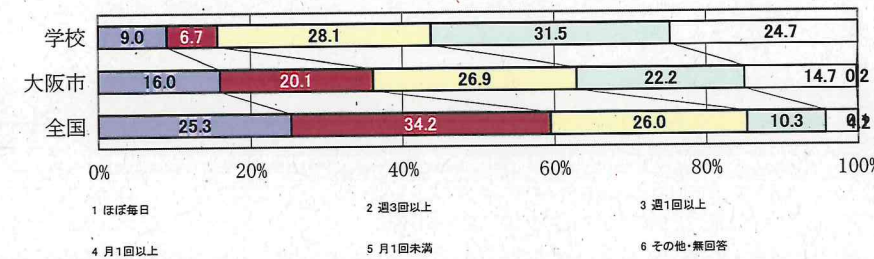
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



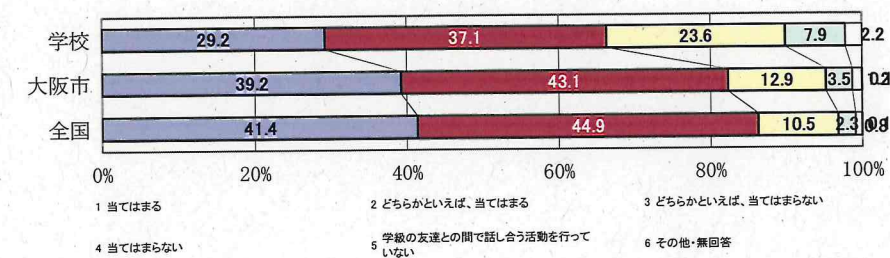
27

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

質問番号

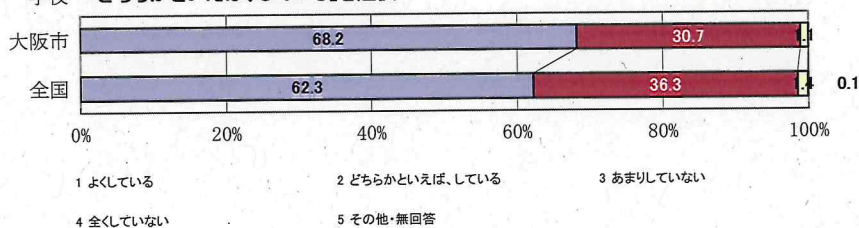
質問事項

16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

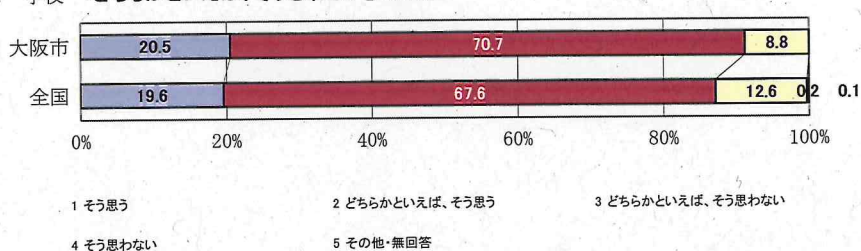
学校「どちらかといえば、している」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

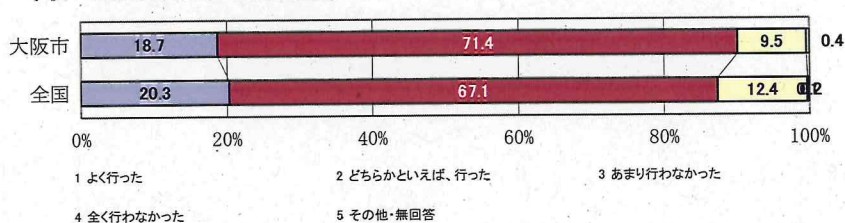
学校「どちらかといえば、そう思わない」を選択



34

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

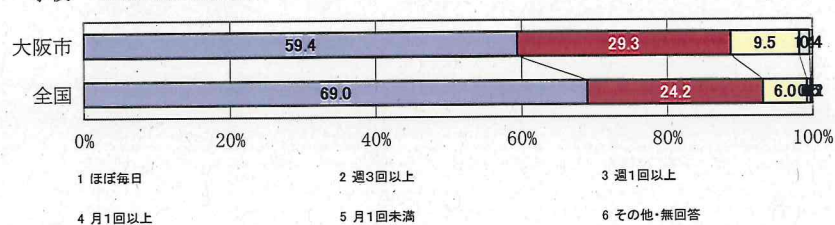
学校「あまり行わなかった」を選択



56

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校「ほぼ毎日」を選択



学校「」を選択

